

| | | | | | |
|----------|--|----|--------|----|----|
| 氏名 | 北島義典 | 部署 | 健康開発学科 | 職名 | 教授 |
| 研究分野 | 運動疫学 公衆衛生学 疫学 健康教育 | | | | |
| 学位 | 修士（体育） | | | | |
| 学歴 | 1987年 中京大学体育学部体育学科、1991年 中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年 中京大学大学院体育学研究科博士課程（中途退学） | | | | |
| 経歴 | 1994年(財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員、2005年同研究所副主任研究員、2011年同財団新宿健診センター 学術室 室長(兼務)、2012年公立大学法人 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 准教授、2014年 同大学院保健医療福祉学研究科 博士後期課程 准教授、2020年同大学保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程教授 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本運動疫学会（監事）、日本健康教育学会（常任理事）、日本体力医学会（評議員）、American college of sports medicine、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本栄養改善学会、日本健康学会、日本学校保健学会、日本ストレス学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会 | | | | |

【2022年度実績】

| | | | | | | |
|----------|---|-----|------|-----------------------|--|--|
| 1. 研究業績 | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ | 著者、編者名 |
| 1 | Do the impacts of mentally active and passive sedentary behavior on dementia incidence differ by physical activity level? A 5-year longitudinal study. | 共著 | あり | ○ | J Epidemiol. doi: 10.2188/jea.JE20210419. | Nemoto Y, Sato S, Kitabatake Y , Takeda N, Maruo K, Arai T. |
| 2 | Association of social participation (including inconsistent participation) with the progression of frailty among older adults: Community-based cohort study in Japan. | 共著 | あり | ○ | Geriatr Gerontol Int. 23(1):25-31. doi: 10.1111/ggi.14510. | Yamada T, Fukuda Y, Kanamori S, Sato S, Nakamura M, Nemoto Y, Maruo K, Takeda N, Kitabatake Y , Arai T. |
| 3 | 性の健康を守る看護職の支援の概念分析 | 共著 | あり | | 母性衛生, 63(4), 793-801. | 服部弓子, 鈴木幸子, 兼宗美幸, 北島義典 |
| (3) 学会発表 | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 感染症拡大前後6年間における地域在住高齢者の身体活動量の変化 3時点パネルデータによる検討 | 共同 | | 第30回 日本健康教育学会, 宇都宮市 | ○根本裕太, 佐藤慎一郎, 武田典子, 北島義典 , 福田吉治, 山田卓也, 早川洋子, 荒尾孝 | 2022年7月 |
| 2 | 地域在住高齢者におけるフレイル悪化と社会参加継続との関連 3年間コホート研究 | 共同 | | 第81回 日本公衆衛生学会総会, 甲府市 | ○山田卓也, 福田吉治, 金森悟, 根本裕太, 佐藤慎一郎, 北島義典 , 笠井貴志, 荒尾孝 | 2022年9月 |
| 3 | 都留市在住の全ての75歳高齢者を対象とした身体・認知機能測定会による実態把握 | 共同 | | 第81回 日本公衆衛生学会総会, 甲府市 | ○天野奥津江, 笠井貴志, 根本裕太, 北島義典 , 荒尾孝 | 2022年9月 |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症流行下における通いの場支援方法および活動状況の変化 | 共同 | | 第81回 日本公衆衛生学会総会, 甲府市 | ○笠井貴志, 天野奥津江, 根本裕太, 北島義典 , 荒尾孝 | 2022年9月 |
| 5 | ロコモティブシンドロームとプレゼンティズムとの関連：病院職員を対象とした横断研究 | 共同 | | 第9回 予防理学療法学会学術大会, 東京都 | ○岸本俊樹, 山本泰弘, 北島義典 , 石橋英明 | 2022年11月 |

| (4) その他 | | | | | |
|--------------|---------------------|-------|---|--|-----------------|
| | 名称 | 単・共 | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 |
| 1 | 該当なし | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省 基盤研究 (C) | | 高齢者の不眠に対する認知行動療法 法の最適化 | 研究分担者 | 2019.4 - 2023.3 |
| 2 | 文部科学省 基盤研究(B) | | 心身機能低下者の通いの場参加を 促し元気高齢者との格差を縮小す る包括的支援策の構築 | 研究分担者 | 2022.4 - 2025.3 |
| 3 | 埼玉県立大学 プロジェクト2022-2 | | 越谷市のデータベースを活用した 介護予防事業の推進 -ビッグデータ解析を用いた通いの 場の効果検証- | 研究代表者 | 2022.4 - 2024.3 |
| 3. 教育業績 | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | |
| 1 | 学部：健康科学1（健康教養） | ○ | 15 | 健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的とした（科目を健康教養として位置付ける）。以下3点を中心に、健康に関する専門的な知識の習得を目指した。 1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。 2. 疾病予防の知識を養う。 3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。 特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで予防行動の変容の困難さや介入方法の工夫について学べるように説明をした。 | |
| 2 | 学部：健康科学2（健康運動論） | ○ | 15 | 身体的、精神的および社会的健康に対する身体活動の効用についての理解を深めることを目的とした。そのために以下の3点を重視して授業を展開した。1. 身体活動の定義を理解し、身体活動が健康づくりのための手段のひとつであることを理解する。2. 非感染性疾患予防のための身体活動の効用を科学的根拠に基づいて理解する。3. ライスステージ別の身体活動ガイドラインを理解する。特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで不活動の健康に対する影響について授業を進めた。特に運動疫学会から発信される情報をもとに最新の情報を伝えた。 | |
| 3 | 学部：卒業研究 | | 30 | 例年、各学生が仮説を立て、それを実証するためにデータを収集し、そのデータを解析した結果をもとに考察を深めることを実施してきた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のためデータ収集が困難のため、既存データをを用いて解析を実施して各学生のテーマについて理解を深めた。 | |
| 4 | 学部：運動疫学 | ○ | 15 | 運動（身体活動）の疾患予防や健康づくりに対する有効性について疫学研究から学ぶ。授業を通じて質の高いエビデンスを選択する能力を高め、質の高いエビデンスを人に伝える方法を習得する。そのために、一定のキーワードを学生に伝え、文献検索を実施させ、選択能力を確認させた。また、学生には選んだ文献を熟読させて、それを発表させて、学生全員で吟味した。 | |
| 5 | 学部：健康行動科学入門1 | | 1 | 私のこれまでの研究を紹介し、研究の面白さを伝えて、エビデンスづくりについて理解を深めた。 | |
| 6 | 学部：健康行動科学入門2 | | 1 | 身体活動の健康に対する効用に関するエビデンスを用いた政策づくりについて、国の指針やこれまでの私の研究を用いて説明をし理解を深めた。 | |

| | | | | |
|---|-----------------------|---|------|---|
| 7 | 大学院：健康長寿論（博士後期課程） | ○ | 15×2 | 高齢化の進むわが国においては、生活習慣病や精神疾患等の非感染症、介護が重要な問題となっているが、これらはいずれも予防が重要である。本講義では、健康長寿の実現に向けて、これらの疾患の危険因子の探索方法や予防プログラムの開発・評価方法について解説し、主として疫学的な観点から、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指した。工夫としてはこれまでの私自身の研究を基本に現行の介護予防や包括支援システムについて理解を深めた。 |
| 8 | 大学院：健康科学実証研究法特論 | | 10 | 健康の維持増進および疾病予防は、個人の健康行動と行政等による集団に対する保健医療施策に影響されるが、健康科学におけるすべての研究成果は、最終的にはヒトにおいて、統計的な手法に依拠して実証的に検討されなければならない。そこで本講義においては、健康科学における実証研究を行う上で必要となるデータ収集や研究デザインに関わる疫学、社会調査の方法論について解説するとともに、研究の中での使用例を解説する。また、ヒトを対象とした研究であるがゆえに避けることのできないバイアスの制御方法について、多変量解析を含めて解説するとともに、統計解析ソフトを用いた、実践的な演習も実施する。 |
| 9 | 大学院：加齢神経運動機能論（博士後期課程） | | 3 | 加齢や不活動による神経・運動機能低下の予防について運動生理学、スポーツ科学などの新たな知見と研究手法を用いて説明した。また、以前に我々が開発した高齢者用の身体機能テスト（生活体力測定）を用いた研究を紹介して地域で実施されている介護予防について理解を深めた。 |

(2) 演習

| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|--------------------|-------|-----|--|
| 1 | 学部：健康運動論演習 | ○ | 15 | 健康を評価する主観的、及び客観的指標の特徴を学習し、調査・測定方法の注意点やデータ解析の方法を学ぶ。そのために、実際に履修生を対象に主観的、及び客観的指標を用いて、データを収集し、解析して、結果について先行研究を参考に解釈を深めレポートにまとめさせた。 |
| 2 | 学部：課題別演習Ⅰ・Ⅱ | | 30 | 卒業研究に関する研究計画書の作成方法（研究倫理、エビデンスレベル、統計解析、論文の書き方） |
| 3 | 大学院 健康長寿演習（博士後期課程） | | 15 | 地域での健康づくりに関する、介入方法（プログラム開発）、評価方法、住民と行政との協働の作り方を事例をあげて解説。 |

(3) 実習

| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|-------------|-------|---------------------|---|
| 1 | ヒューマンケア体験実習 | | 15 | 「ヒューマンケア論」で学んだことを、保健・医療・福祉の実践現場にて実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる人々・グループメンバーなどと直接的に関わることによって、①自己の人との関わり方を客観視する姿勢、②グループメンバーと協力し合う姿勢、③援助を必要とする人々のニーズや保健医療福祉に携わる人々の役割へ関心を向ける姿勢、④多様な人間観・価値観を理解しようとする姿勢を養う。①～④が現場のどの場面で大切かがわかるように解説を加える。 |

(4) 論文指導

| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
|---|------|---------------|-----------------|----------------|
| 1 | 卒業論文 | 2022.4-2023.3 | 主指導 5名 | 副指導 0名 |
| 2 | 修士論文 | 2022.4-2023.3 | 主指導（指導教員） 0名 | 副指導（指導補助教員） 1名 |
| 3 | 博士論文 | 2022.4-2023.3 | 主指導（指導教員） 0名 | 副指導（指導補助教員） 7名 |

(5) その他

| | 名称 | 期間 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） |
|---|------------|---------|-----------------------|
| 1 | 人事委員会 委員 | 2023. 1 | 人事採用審査 |
| 2 | 大学院修士論文 主査 | 2023. 2 | 修士論文審査 主査 |

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
|---|------------------|------------------|-----------------|---------|
| 1 | 埼玉未来大学 講義 | 埼玉未来大学 (熊谷学園) | 脳力アップ！睡眠の効用 | 2022年5月 |

| | | | | |
|----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|--|--------------------|
| 2 | 健康運動指導士会養成講座 | 公財)健康・体力づくり事業財団 | 体力測定と評価 介護予防に関連する体力測定法とその評価 | 2022年6月,11月 |
| 3 | 越谷市 市民健康教室 | 越谷市保健センター | 「運動の講話と実習」いつでもどこでも+10 ～こまめに身体を動かそう～ | 2022年9月 |
| 4 | 越谷市チームー3キロ | 越谷市 | テーマ：減量に効果的な運動は？ | 2022年11月 |
| 5 | 越谷市大袋公民館 健康講演会 | 越谷市大袋公民館 | テーマ：コロナ過における健康 | 2023年2月 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | | 委員等の名称 | 任期 |
| 1 | 春日部市健康づくり推進審議会 | | 委員および会長 (議長) | 2020年4月～現在 に至る |
| 2 | 春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会 | | 委員および会長 (議長) | 2020年4月～現在 に至る |
| 3 | 越谷市生涯学習審議会 副会長 | | 委員および副会長 | 2021年4月～現在 に至る |
| 4 | 戸田市保健対策推進協議会 | | 会長 | 2021年4月～現在 に至る |
| 5 | 武里団地ささえあいの会 | | 委員 | 2018年4月～現在 に至る |
| 6 | 都留市セーフコミュニティ | | 外傷サーベイランス委員会委員 | 2019年11月～現在 に至る |
| 7 | 都留市長寿介護課 (都留市と県立大学との共同研究協定) | | 都留市研究 (地域高齢者の集団的健康づくりの開発とその評価) | 2016年1月～現在 に至る |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | | 内容 | 年月 |
| 1 | 読売新聞 朝刊 | シニアへの睡眠アドバイス | | 2023年3月31日 |
| (4) その他 | | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | 内容 | | 期間 |
| 1 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 地域産学連携センター副所長 | | 2021年4月～現在 に至る |
| 2 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 大学院教務委員会 委員長 | | 2021年4月～現在 に至る |
| 3 | 学生支援 | D's bar 顧問 | | 2012年10月～現在 に至る |
| 4 | 大学広報活動 | オープンキャンパス 授業紹介 | | 2013年4月～現在 に至る |
| 5 | 国際交流活動 | 北京大学公衆衛生学教室 王培玉教授 講演 中国のコロナ対策 | | 2022年11月 |
| 6 | 全学的委員会及びセンター業務等 | 大学院改革プロジェクト | | 2022年8月～現在 に至る |
| 7 | 全学的委員会及びセンター業務等 | センターあり方プロジェクト | | 2022年11月～現在 に至る |
| 6. 受賞 (研究、教育、社会貢献活動に関するもの) | | | | |
| | 受賞名 | 主催 | | 受賞年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | | 登録年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |